

2026年度 運動方針確立 産別統一闘争の飛躍で要求前進

令和8年熊本地震で被災された
皆様に心よりお見舞申しあげます

- 〈採決結果〉
- 26年度運動方針案…賛成多数で可決
 - 26年度予算案…賛成多数で可決
 - 規定の改定案…賛成多数で可決
 - 26秋闘産別スト権…確立
(賛成167票・反対3票・白票0票)
 - 共済事業方針案・予算案…承認



議事は2025年度決算報告・会計監査報告のち、米沢哲書記長より2026年度運動方針案を提案しました。討論では、

日本医労連は、7月21日～23日に栃木県ライトキューブ宇都宮で「第76回定期大会」を開催しました。2026年度の運動方針と予算を採択・確立し、新年度役員を選出しました。大会では、ストライキを背景に大幅賃上げを求めて奮闘した経験や夜勤規制と大幅増員をめざすアクションプランの取り組み報告、地域医療を守るたたかい、争議をたたかう仲間の報告、組織強化拡大の経験など活発な発言が相次ぎ、産別運動前進への決意を固め合うものとなりました。

すべてのケア労働者の大幅賃上げと
大幅増員を実現させよう

来賓の方々

全労連
秋山正臣議長

福祉保育労
仲野智書記長

医団連代表・
全日本医連
入江敬一事務局長

日本共産党
倉林明子
前参議院議員

2025年度は、ケア労働者の大幅賃上げ・大幅増員に向け、全国で記者会見や宣伝行動、自治体要請など旺盛に取り組みました。その奮闘が政府を動かし、補正予算には医療・介護分野の賃上げや物価高騰対策が盛り込まれ、診療報酬は30年ぶりの水準となるプラス改定、介護・障害福祉サービス等報酬も前倒し改定に近づきました。しかし、政府が示す賃上げ水準には届かず、他産業との賃金格差は広がったままです。人手不足も深刻で、必要な人員を確保できず、十分なケアを提供できない状況が続いています。

医療・介護労働者が働き続けられる賃金と労働環境を実現するため、大幅賃上げ・大幅増員の運動をさらに広げていきましょう。社会保障改悪や病床削減に反対し、国民のいのちと健康を守れる声を大きく上げていきます。平和なくして国民のいのちも暮らしても守れません。憲法を守り、戦争を許さない取り組みを進めます。制度・政策に大きな影響を与え、私たちの要求を実現するために、早期に17万人を回復し、18万組織の達成、そして20万医労連をめざし、ともに奮闘してまいります。

ありがとうございます
ございました

※肩書きは定期大会開催時点のものです

「令和8年熊本地震」の支援体制につきましては、全労連とも協議の上、改めてご協力を呼びかけます。

当面は、要請された物資などの支援・カンパの取り組みを進めたいと考えております。まもなく発文書を発出いたしますので、ご協力をお願いいたします。

第76回日本医療労働組合連合会（日本医労連）定期大会に寄せて

2026年7月1日
国際看護師協会（ICN）CEO ハワード・カットン

第76回定期大会の開催にあたり、国際看護師協会（ICN）は、日本医療労働組合連合会（日本医労連）の皆様に関連の意を表します。皆様が掲げる、看護師の確保と定着を図るための賃金引き上げ、そして患者の安全を維持しすべての人に質の高い医療を提供するための安全な人員配置の実現という要求を、私たちは敬意を持って支持します。

ICNは、女性が担う労働として長年にわたり過小評価され、十分な資金が投じられてこなかった医療・ケアシステムの重圧を負い続けている看護師たちを支援し、守るために尽力しています。看護職は歴史的に低賃金に据え置かれ、「女性の仕事」として軽視され、本来受けるべき敬意や保護、そして投資を拒まれてきました。

私たちは、公正な賃金、安全な労働条件、そしてジェンダー平等の実現は、決して譲ることのできないものであると断言します。看護の仕事は単なる「コスト」ではなく、高いリターンをもたらす「投資」として捉えられるべきです。ICNが「国際看護師の日」に合わせて発表した報告書『Empowered Nurse Save Lives（力を与えられた看護師が命を救う）』は、看護が、健康・社会・経済の成果を革新する力を持つ、影響力の大きい専門職であることを示す重要な証拠を提示しています。同報告書は、看護の持つ力を最大限に発揮させるための投資の必要性を強く訴えるとともに、世界の保健医療の基盤である看護の力を十分に活用することを阻む課題に対し、明白な解決策を提示しています。解決策には以下が含まれます。

- ・強靱な保健医療システムの要として、看護への投資を行うこと。
- ・暴力に対して「ゼロ・トレランス（一切容認しない）」姿勢を貫き、安全で健全な職場環境を保証すること。
- ・看護師のスキル、教育、貢献を反映した公正かつ競争力のある賃金を確保し、ジェンダー間賃金格差を解消すること。
- ・「ディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）」、安全な人員配置、自律性、そして良好な実践環境の提供を通じて、看護師の定着を促し支援すること。
- ・明確なキャリアパスの構築とキャリア初期の支援を行い、専門職としての地位を強化すること。
- ・公平な配置、倫理的な採用、緊急事態への備えを確保する、看護職の確保・育成に関する国家計画を策定し、そのための財源を確保すること。

あらゆる地域社会の健康と安全を守る看護師は、正当な評価と敬意、そして適切な報酬を受けるに値します。ICN（国際看護師協会）は、公的な診療報酬の大幅な引き上げと、賃上げに向けた即時の財政支援を求める日本医療労働組合連合会の取り組みを支持します。

私たちは、ILO（国際労働機関）の「看護職員に関する条約」やその他の国際労働基準の完全な実施を推進するという皆様の決意と連帯します。そして、すべての看護師が尊重され、守られ、力を与えられるようになるまで、私たちは声を上げ、提言を行い、行動を続けてまいります。

岩手は、県看護対策委員会が取り組んだ『看護職員の労働実態調査結果を紹介。1年前と比べて仕事量が増えた7割強、慢性的疲労「健康不安」「強いストレス」は、いずれも高率だったと報告し、大幅増員と後勤改善を求めて記者会見を実施した』とを報告しました。全労災は、看護師の選択を賛同問題、および「みなし勤務」の獲得に向けたたたかいについて発言。機構の不誠実な態度に対する強い怒りと決意が語られました。岡山は、倉敷医療生協労組での「夜勤規制・大幅増員署名」の推進について発言。「コロナ前ははきっていった」「絶対にむり抜く」と意思統一をし、目標を一人

10筆に引き上げ取り組んだこと、その目標を上回る9102筆を集約したプロセスを報告しました。北海道は「夜勤規制と大幅増員をめざすアクションプラン」の総括と課題を報告、立ち上がったもらえる仲間をいかに作るかが対話以外にないと考え、道医連の看護対策委員会を確立させるためにも対話をすすめていきたいと決意を語りました。青川は、医師・看護師・介護

職以外の医療技術職の増員・処遇改善にかかわって発言。各職種で業務内容・需給バランス、診療報酬上の評価体系は根本的に異なり、多岐にわたるメディカルスタッフを同列で扱うことに違和感があるとし、具体的な取り組み提起を求めました。広島は、海外の「看護の日」のように地域の皆さんと一緒に看護師へエールと感謝を伝えるイベントができないかと、新たな試み

守ろう、いのちと平和

宮城は、「命を守る仕事と平和を守る運動は切り離せない」との考えのもと、独自の沖縄フィルドワークを3年間継続。基地問題や沖縄戦の真相を学ぶ、職場での報告会

として取り組んだ「ナースサンクス・エス」について報告しました。



(左) 五十嵐真理子さん（全日赤）
(中) 藤田久美子さん（九州・長崎）
(右) 宮越 悠介さん（北海道）

大会議長お疲れさまでした

対話で意思統一
職場に、世論に
知って知らせる
大幅増員処遇改善



語り合い
声を集めて
未来をひらこう

対話でひるげる 運動組織

全医労は、対話を重ね、要求を団体交渉や職場改善につなげる総対話で要求実現を組織拡大の基本に据えた取り組みを報告しました。徳島は、ベクトルな組合員登録、加型の運営を進め、対話を重視した日常活動が役員育成や組織拡大につながった経験を

運動見える化で組織拡大

述べました。神奈川は、ナースウェーブで運動会を開催し、仲間が安心して集える場をつくりを通じて、組織強化と要求運動の前進につなげた取り組みを報告しました。宮城は、ヘルパーへの処遇改善や当支給問題で団体交渉やトライイギに取り組み、新たな加入につながったことを報告しました。三重は、春闘を通じて団体交渉への参加を促し、執行部が怒りや悔しさを共有し成長した経験を述べました。

協力を訴えました。愛媛は過疎地域で医療・介護を取り組むを報告。自治体病院の公営撤退方針に対して、団体交渉や議員懇談を実施。労働組合の組織化をすすめ、住民のいのちと地域の社会保障を守る決意が述べられました。

憲法改悪と軍事力拡大に反対し、平和・民主主義・くらしを守る特別決議

ロシアによるウクライナ侵攻や、中東におけるイスラエルとイランの軍事衝突、さらにはアメリカによるイランへの軍事行動など、世界各地で戦争や紛争が続く、多くの尊い命が奪われ、平和な暮らしが脅かされています。いのちとくらしを守るわたしたち医療・介護・福祉労働者にとって、最大の人権破壊である戦争は、断じて容認できるものではありません。私たちは日本医労連は、結成当初から「ふたたび白衣を戦場の血で汚さない（けがさない）」をスローガンに掲げ、平和を希求し、憲法を守る運動を労働組合活動の柱に据え、奮闘してきました。しかし現在、高市政権が急進させている改憲のうごきは、戦後の日本が歩んできた日本の在り方を、根本から覆すものです。高市政権は、主権者である国民が為政者を律する憲法の理念を、国民が国に尽くす命令書へと改変し、さらに9条2項で軍隊の保持と海外での戦闘に道を開こうとしています。すでに、長距離ミサイル配備や殺傷武器の輸出解禁、安保3文書の改定、さらには国家情報会議設置法の強行など、国民的な議論もなく日米一体の「戦争国家づくり」が急速に加速させています。これは、日本国憲法が掲げる戦争行為の永久放棄と軍隊の不保持を完全にかなぐり捨てた暴挙にはなりません。アメリカの軍事経済に従属する政府によって、私たちのくらしは深刻さを増しており、そのしわ寄せは医療・介護・福祉の現場を直撃しています。軍事費は際限なく膨張する一方で、社会保障費は抑制され、現場の労働環境や国民の生存権は危機に瀕しています。平和とくらし、そして民主主義を破壊する政治を、これ以上続けさせるわけにはいきません。いま、平和主義への攻撃に対し、全国各地で多くの市民が「憲法こそ希望」と切実な声を上げています。私たちは、日本の進路の重大な岐路に立っています。憲法が生まれた歴史をあらためて学び、2度と戦場に医療従事者を送り出さない、そして誰も戦火に怯えることのない社会を維持することは、私たちの社会的使命です。平和・民主主義・憲法を守り、戦争をしない、いのちとくらしを最優先の日本を、全国の仲間、そして患者・利用者、地域住民とちからを併せて実現しましょう！

以上、決議します。

2026年7月23日
日本医療労働組合連合会 第76回定期大会



川柳発表

2026年「医療・介護にはたらくみんなの川柳」最優秀作品賞
AIの
知能はないけど
愛はある
（応募総数113全国組合10県
医労連から計209首）

高知は、春闘トライイギの報道をつかじに、約100人の組合員を擁する渡川病院労組の加盟を実現した取り組みを報告しました。愛知は、新組合結成によって、パワハラや賃金改悪を阻止し、新人との対話を重視した活動で4年連続の組織増勢を実現したことを報告しました。石川は、昨年結成された障害福祉施設の新組合が、パワハラは正や職場環境改善つなげた取り組みを報告しました。佐賀は、新たに結成した病院労組が未

2号議案、3号議案、共済推進

2号議案
秋田は方針議論を深め、たたかいの質を保つために中央委員会を「リール開催が望ましい」と発言。石川は中央行動での省庁要請の回数校のめでは、秋ではなく春に実施と報告しました。沖縄の発言では、9月の沖縄県知事選挙について、辺野古新基地建設や南西諸島への自衛隊配備強化に反対し、玉城デニー知事の勝利に向け全国の支援を呼びかけました。

予備提案の
発言も含めた57本の発言で、方針が補強されました。

書記長総括答弁

要望に
ついて

待機手の調査については自分たちの資金や手当の現状を把握し、情報発信を行うために重要な調査なので、「賃金・労働時間見直し」にある該当項目に回答をお願いします。ジェンダー平等推進のため、誰もが参加できる組合活動や会議、集会の仕組みづくりを工夫し、金銭面も含めて改善を目指します。医療・介護の公的役割を踏まえ、賃金や労働条件の人権準拠を目指した中長期的な要求の必要性が訴えられました。リハビリ職や医療技術職の問題については、個別要求提案は難しいものの、統一要求の中で改善を求めていきます。また、無法なベッド削減をすすめる地域医療構想に対する声明文の発出や、アクションプランの提起、春闘討

討論のまとめ

賃上げについて、賃上げ世論つくりの奮闘に発言や、ストを構えたたたかいの報告から、これまでのストを実施できるかどうかの議論から要求実現に向けた議論の進歩を感じました。ぜひ26春闘を振り返って、次のたたかいに向けた議論を展開してほしいと思います。独自の取り組みとして、議行要請や署名運動が報告されました。各加盟組織で必要な取り組みを検討していくことが大事であり、そ

論集会の日登変更についても要望がありました。会費納入については、医労連の運動の重要性への理解や、組合員拡大が必須であるを再認識しました。新たな賃上げチラシの作成や、調査票の集約方法の工夫も求められました。専従未置員での労働相談対応には、ブロックの協力体制が必要と考えます。最後に本部内の問題については、個別の詳細は控つつ再発防止策を中核で括している旨を報告します。

3号議案

千葉・山梨・神奈川からは規定改定について賛成としつつ、形式的なものにとどめず、透明性をもって厳格に運用すべきとの意見がありました。三重からは、重い処分については本人に反論の場を設けるなど、処分の乱発がおこなないような制度設計を求める意見もありました。答弁では、規定の運用においても各加盟組織の代表である中央執行委員とともに、公正公平に行うと述べました。

共済推進

石川は新システム導入について、これまでの経過と総括について、共済推進と国交流集会での説明を求めました。答弁では全国交流集会報告すると述べました。

見解を述べました。また省庁要請を秋に設定したことについては、政府の予算案決定の時期を踏まえてのことだと説明しました。また、将来にわたる労働組合専従を要するく、財政状況に合わせて直ちに変わるべきかは慎重な検討が必要とし、今後の課題である認識を示しながら時間をかけて議論すると述べました。

予備提案の
発言も含めた57本の発言で、方針が補強されました。

や学習会を通じて仲間へ学びを広げる取り組みを進め、参加者からは「平和を自分自身の問題として考えられるようになった」との声が寄せられた

全JCHOは、賃金引き上げを求める署名運動の交渉を展開し、全職種で平均3・2%の基本給引き上げを実現。機構本部による不誠実な賃金対応や病院運営問題を指摘し、現場と一体となった運動の成果を報告しました。全日赤は、今春闘で本社から賃金引き上げの必要性を認める前向きな回答を引き出し、交渉議事録の作成も約束させるなど、今後の賃金交渉を前進させる足掛かりを築いたことを報告しました。全労災は、ベア・評価料を活用し賃金交渉で、ストライキを背景に機構の持ち出しも含め賃金改善を実現し、全職員に波及する引き上げで合意に至った経過

を報告しました。全厚労は、41年ぶりの全国キャラバンや財務省・国会議員要請を展開し、地域医療を守る世論つくりを進めた取り組みを報告しました。愛知は、7単組・支部がストライキに立ち上がり、14年ぶりとなるベア・アップを実現。職場での対話を積み重ねながら要求前進につなげた経験を報告しました。岐阜は、組合要求とは異なる形ながら賃上げ回答を引き出した経験を踏まえ、日頃から現場の実態を伝え、労使で信頼関係を築いてきたことが成果につながったと述べました。神川は、春闘統一行動でストライキと増員署名に取

り組み、未組織の医療・介護を粘り強く進め、多くの前進回答を引き出したことを報告しました。新入職員への「3つのちかひ」の実現で100%加入を達成した支部や新組合の結成にも触れ、賃上げと組織拡大を一体を進める重要性を訴えました。岡山は、報酬改定に伴う賃上げが労使交渉や組合運動をめかねない状況に危機感を示し、生計費原則に基づき大幅な賃上げ要求で

京都は、地域医療構想について発言。20万人以下の地域から急性期地医療を排除する「地方切り捨て」と、高齢者救急を一般が切り分ける「高齢者差別」を助長するよう「高年齢医療構想」に反対する声明が必要だと訴えました。青森は、貧困を許さないたたかいに労働組合が取り組む必

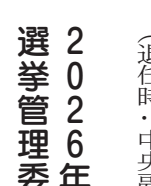
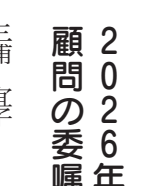
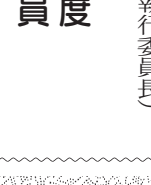
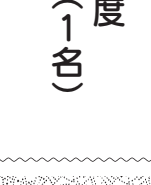
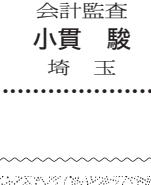
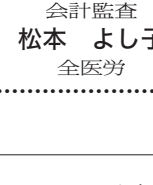
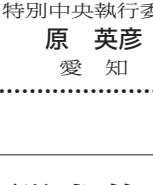
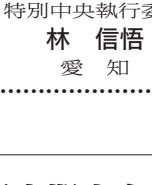
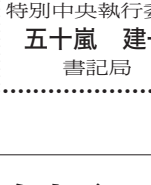
要性を述べました。貧困率が高い地域と自衛隊入隊率の高さが比例していることを報告。「戦争になれば死のリスクを背負うのは誰か」と問いかけ、貧困をなくすたたかい、社会保障を守る運動の強調を訴えました。全医労はハンセン病療養所の存続について、入所者の減少と高齢化に対応した将来構想や法改正が必要だと述べました。また、国立病院センターネットワーク医療を担う面からも国からの補助が重要と訴え、共に署名への

ストして粘って賃上げ獲得

 中央副執行委員長 坂田 政春 京 都	 中央副執行委員長 渡辺 勇仁 山 形	 中央副執行委員長 吉田 岳彦 北海道	 中央副執行委員長 花澤 直樹 全厚労	 中央執行委員長 佐々木 悦子 全医労
 中央執行委員 月又 智広 全日赤	 中央執行委員 大栗 陽 全厚労	 中央執行委員 鈴木 仁志 全医労	 書記次長 桶谷 恵美 書記局	 書記次長 寺田 雄 東 京
 中央執行委員 矢野 彩子 愛 知	 中央執行委員 松崎 実和 東 京	 中央執行委員 森田 進 東 京	 中央執行委員 傳田 泉 長 野	 中央執行委員 遠藤 麻由 宮 城
 特別中央執行委員 寺園 通江 書記局	 特別中央執行委員 黒澤 幸一 北海道	 中央執行委員 齋藤 由美子 書記局	 中央執行委員 山崎 世理 書記局	 中央執行委員 櫻井 順一 書記局

よくお願いします

2026年度中央執行委員

 中央執行委員 中村 更(熊本)	 中央執行委員 谷口 考平(和歌山)	 中央執行委員 榎田 ふみ(全厚労)	 中央執行委員 知念 孝二(全医労)	 特別中央執行委員 寺園 通江 書記局	 特別中央執行委員 黒澤 幸一 北海道	 中央執行委員 齋藤 由美子 書記局	 中央執行委員 山崎 世理 書記局	 中央執行委員 櫻井 順一 書記局	 中央執行委員 小貫 駿 埼 玉
 特別中央執行委員 寺園 通江 書記局	 特別中央執行委員 黒澤 幸一 北海道	 中央執行委員 齋藤 由美子 書記局	 中央執行委員 山崎 世理 書記局	 中央執行委員 櫻井 順一 書記局	 中央執行委員 小貫 駿 埼 玉	 特別中央執行委員 寺園 通江 書記局	 特別中央執行委員 黒澤 幸一 北海道	 中央執行委員 齋藤 由美子 書記局	 中央執行委員 山崎 世理 書記局

●選出された26年度役員のみなさん(敬称略)

第38期共済運営委員

監事	田原 弥生	池上 智子	山口 早苗	北山 留美	金子 竜太	村口 洋生	石堂 吉輝	新喜 倫生	永島 達哉	田村 巧	坂本 諭	渡邊 拓末	吉岡 輝己	岡野 学	鄭 扇伊	鹿野 光裕	桶谷 恵美	油石 博敬	渡辺 勇仁	佐々木 悦子	
役員	東京医労連執行委員	神奈川県医労連執行委員	全日赤書記次長	鹿児島県医労連書記次長	高知県医労連書記長	鳥取県医労連書記長	奈良県医労連書記長	石川県医労連書記次長	千葉県医労連書記長	岩手医科大学教職員組合中央執行委員	北海道医労連書記長	全厚労書記次長	全日赤中央執行委員	全医労書記	日本医労連書記次長	日本医労連書記次長	日本医労連書記次長	日本医労連書記次長	日本医労連書記次長	日本医労連書記次長	日本医労連書記次長

日本医労連 第76回定期大会 大会宣言

日本医労連は7月21日〜23日までの3日間、栃木県宇都宮市において第76回定期大会を開催しました。大会には、7全国組合・46都道府県医労連から代議員171名、特別代議員4名、傍聴・役員等あわせて86名が参加し、熱心な討論を行い、運動方針を決定しました。

今大会では、第1号議案にかかわって57本の発言で、職場の厳しい実態と、それを改善するために積み重ねてきた確信に触れるたたかひの経験が語られ、活発に討論されました。26春闘では大幅賃上げに向けた行動への結果を背景に、粘り強い労使交渉で前進を勝ち取った報告や、ベア評価料の形骸化や一時金引き下げによる「年収減」の理不尽を許さず、生活を守るために立ち上がった賃金闘争、夜勤規制と大幅増員をめざすアクションプランの取り組み報告、地域医療構想による病床削減や統廃合の動きに対して住民と一体となって地域医療を守り抜いた経験、経営者の横暴に屈せず権利を守るための争議の報告、新たな組合結成や日常活動の可視化を通じた組織拡大の教訓、組織減と財政難を乗り越えるための様々な意見、全国アクトの成功に向けた青年の確かなつながり、そして何よりも要求前進のために産別へ結果することの重要性が熱く強調されました。

ケア労働者の賃上げを求める私たちの多彩な運動は、メディアを通じて広く世論を動かし、政治を動かす大きな成果を上げてきました。しかし、高市政権の社会保障費抑制政策は、依然として国民のいのちと健康を脅かし、過酷な現場を放置したまま私たちの犠牲の上にすすまれています。「医療DX」の名のもとに従来の健康保険証の廃止・マイナ保険証一本化を強行する暴走は、患者の受療権を脅かし、現場に多大な混乱とわ寄せを押し付けています。さらに、医療費4兆円削減やOTC類似薬など一部保険外療養の導入、高額療養費制度や介護利用料など利用者負担増、新たな地域医療構想によるさらなる病床削減など、国民のいのちと健康、生活の根幹を揺るがす医療・介護の削減政策が次々と具体化されており、現場と地域の「怒り」はもう限界、に達しています。

日本国憲法公布から80年。高市政権は、改憲に向けた議論を加速させる姿勢をあらわにしています。いま改めて、悲惨な歴史の教訓から「ふたたび白衣を戦場の血で汚さない」ことを決意し、反戦平和をかかげる医療産別として、憲法9条が生きる平和で民主的な社会の実現に向けて、私たちは差別と分断を許さない政治を追求し、運動の先頭に立って奮闘する責務があります。

私たちが直面している最大の課題は、すべてのケア労働者の社会的役割にふさわしい賃金・労働条件の確立と、夜勤規制・大幅増員の実現です。2年目となる夜勤規制と大幅増員をめざすアクションプランを旺盛に展開するとともに、「いのちまもるキャラバン行動」を柱に地域で対話を広げ、すべてのはたらく仲間、市民とともに大きな世論を巻き起こしていきましょう。

私たちの運動は、世論を広げ、ケア労働者の賃上げに向けた政策を実施させました。しかし、中身はまだ不十分です。私たちの要求を実現させるためには、職場で未加入の仲間、そして圧倒的に未組織となっている全国940万人の医療・介護・福祉労働者に医労連運動への結果を呼びかけ、日本医労連の組織をさらに強く大きくし、制度・政策に大きな影響力を発揮する強固な医療産別を、私たち自身の団結の力で築き上げようではありませんか。

安全・安心の医療・介護・福祉を提供し、誰もが安心して生き、働き続けられる社会を実現するために、今大会で決定した方針に団結し、全国の仲間と共に奮闘することをここに宣言します。

2026年7月23日
日本医療労働組合連合会第76回定期大会

大会に寄せられた
連帯のメッセージ

日本医労連第76回定期大会には、全労連はじめ11の団体・個人から連帯のメッセージが届きました。ありがとうございます。

退任役員

〈中央副執行委員長〉
菅原 忠(全労災)

〈中央執行委員〉
松本 よし子(全医労)
青山 光(東京)
相山 智昭(山口)

〈特別中央執行委員〉
鎌倉 幸孝(長野)

〈会計監査〉
鈴木 優(全医労)

お疲れさまでした